

# 韭 工 ニュース

県立韭崎工業高等学校 総務部  
第 138 号 2015.12.04

## 甘利山強歩大会実施

## 保育体験実施

## ロボコンやまなしで活躍

### 甘利山強歩大会

今年で 48 回を数える甘利山登山強歩大会が 10 月 29 日に開催されました。男子は山頂往復の 30km で標高差 1153m、女子は樫池往復の 21km で標高差 853m、制限時間は 7 時間というハードなコースです。今年は 467 人が出走し 461 人が制限時間内に完走しました。完走率は、過去最高となった昨年の 98,0%を上回る 98,7%という素晴らしい結果でした。



特筆すべきは、2 時間 29 分 27 秒のタイムで帰ってきた 3 年の篠原正輝君(韭崎西中出身)が、大会史上 2 人目の 3 年連続 1 位の快挙を達成。また、出走者 160 人全員が完走し完走率 100%を記録した 2 学年は、大会史上初の記録で『韭工健児』の意欲の高まりが感じられた大会でした。完走後は、保護者の方々に早朝より準備していただいた温かい豚汁を頂きながら達成感と満足感に満ちた表情が溢れていました。

### 保育体験実施

10 月 19 日から 27 日まで、1 年全クラスの生徒が保育体験実習を実施しました。この実習は、韭崎愛生幼稚園児と直接触れ合う体験を通じ、子どもをいとおしく思う気持ちや生命の尊さを理解し、将来、親となる自覚を促すことを目的としています。すでに、同園卒園生も本校に入学していて地域に根付いた交流となっています。事前にクラスごと計画した遊び(ペアになってのゲームや新聞紙を使ったかぶと作り等)や、おやつタイムでの名札交換、



生徒による紙芝居の発表、図書館での本の読み聞かせによる交流をしました。また、今年は、3 年「発展家庭」履修生徒が製作した「折り紙作品」のプレゼントもありました。さらに、マスコミ取材 (YBS、CATV) も入り、その様子がテレビに放映されました。期間中は園児の目線に合わせた生徒の優しい言動が多くみられ、異世代との関わりや進路選択のきっかけにもなった実習ができました。

### ロボコンやまなしで活躍

#### ライトレース部門

ロボコンやまなし 2015 高校生の部Ⅱ (ソーラーカー) 競技に、電子機械科・システム工学科の生徒が製作した 4 台のロボットが出場しました。今年度は県内の工業高校などから 15 台のロボットが出場しました。本校が製作した 4 台のロボットはすべて予選を通過し上位 8 台で行う決勝に進出しました。決勝では「韭工 1 号」と「韭工 4 号」は充電不足で途中で停止してしまいましたが、「韭工 3 号」が 1 分 20 秒のタイムで優勝、「韭工 2 号」が 2 分 11 秒の記録で 3 位を獲得することができました。今年は太陽電池を 4 枚搭



載したりし、軽量化に力を入れました。当日は思っていたよりタイムは伸びませんでしたが、昨年に引き続きソーラーカー競技で2連覇を達成することができました。

## 対戦型球入れ競技

制御工学科課題研究ロボット製作班及びロボット工学部員総勢10名は、夏休み以降「ロボコンやまなし」へ出場する球入れロボットを製作しました。しかし、就職試験や学園祭等があり、思うように進まず、構想は幾つもありましたが、実現には多くの困難がありました。お手玉を拾う部分は、搔き込み型、ハサミ型、先端部に針を付けたものなど多種にわたりました。お手玉を飛ばす部分は、昨年同様2つの車輪を回し、その間に球を送り込み飛ばす方式にしました。また、今回はより高く飛ばそうと車輪に工夫を加えました。この工夫（企業秘密）により、天井に当たるぐらいになりました。ただ、決まった位置に正確に飛ばすために、「試し」「改善」を何回も繰り返し、3分間でMAX10個ほど入れられるロボットが完成しました。大会での結果は、準決勝に3台が進み、決勝は同校対決となりました。最終結果は、優勝、準優勝、牧野賞をいただきました。来年も良い結果が残せるよう現1、2年生には期待しています。



- 優勝 ロボット名「一寸ゴレライ」  
3-5 堀内 雄也（白根御勅使中出身）・利根川 開（長坂中出身）
- 準優勝 ロボット名「制御工学科1号」  
2-5 丹澤 拓豊（甲府北中出身）・山本 広（韮崎西中出身）
- 牧野賞 ロボット名「一寸ゴレライ」  
3-5 堀内 雄也 利根川 開

## 対戦型ペットボトル立て

この部門は、リモートコントロールによりペットボトルをゴールに立てる競技ですが、本校5台（電子機械科・システム工学科4台、情報技術科1台）、甲府工業6台など6高校から26台がエントリーしました。今年の課題は、ペットボトルが空の状態を立てて置いてあるという難しい課題でした。少し触れたただけですぐに倒れてしまうので、触れた瞬間、自動でキャッチするスイッチを付けるなど改良を加えました。予選では8台が勝ち上がりましたが、本校からは2台が残り、ベスト4には1台が残りしました。残念ながら5連覇には届きませんでした。来年は課題を見つけ、改良しさらに良いロボットを作ってもらい、全部門優勝という快挙を達成してほしいと思います。



- 第3位 韮IMS4号（電子機械・システム工学科）
- ベスト8（未来科学賞） 韮IMS2号（電子機械・システム工学科）  
（アイデア賞） 韮工J1号2015（情報工学科）